

韓国における老人福祉政策の展開  
- 老人福祉施設に関する一考察 -

木村 誠子

高知大学医学部看護学科 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

Deployment of welfare policies for the elderly in Korea  
- A consideration about welfare institutions for the elderly -

Masako KIMURA

Department of Nursing Science, Kochi Medical School, Kochi University  
Kohasu Oko-cho Nankoku-city, Kochi 〒783-8505 Japan

Abstract

In 2000, Korea entered the category of an aging society with the proportion of the population 65 years old and over exceeding 7%. The proportion is estimated to reach 14% in 2019. This rate of the increase from 7% to 14% is higher than that in Japan that has shown the highest rate among aging societies. The Korean government established the Welfare Law for the Elderly in 1991, and has been promoting welfare policies for the elderly based on this law. In Korea, improvement in the living base by social security is delayed compared with other countries, and there are marked economical differences among elderly people. We visited public institutions for elderly people with low income and private institutions for wealthy elderly people, and observed a marked difference in the living levels between public and private. At present, institutions are being improved with priority given to an increase in number. Elimination of the differences among institutions is necessary to increase the general quality of welfare institutions for the elderly by improving the living environment and enriching service contents.

キーワード：韓国，老人福祉施策，施設

Key Ward： Korea, welfare policies for the elderly, institution

## はじめに

わが国では65歳以上老年人口の割合が1970年に7%、24年後の1994年には14%を超え世界で最も速い速度で高齢社会に突入した。隣国の韓国においても2000年に65歳以上老年人口の割合が7%を超え、19年後の2019年には14%に到達すると予測されており、日本を上回る速さで高齢社会に到達すると言われる<sup>1)</sup>。

韓国には根深く儒教の思想が残っており、子どもたちが親の老後をみてゆくのが通念という<sup>2)</sup>。しかし、韓国においても日本と同様に、高齢者と子どもとの同居率が年々減少傾向にあるために、高齢世帯や単身世帯の占める比率は増加する傾向にある<sup>3)</sup>。このことから、韓国においても老年人口の問題が医療・保健・福祉などの面で、今後は大きな社会問題へ発展していくことが予測され、社会保障や福祉などの国家レベルでの老人福祉政策の整備が求められている。本稿では、韓国の老人福祉政策のもとで整備されつつある老人福祉施設の中で、筆者が視察をおこなった施設について報告したい。

### 1. 韓国の老人福祉政策

韓国政府は1991年に老人福祉政策として、『敬老と老人の生活安定』『能力に準じた社会活動』『健全な心身の維持と社会発展への寄与』を基本理念とした老人福祉法を制定した<sup>4)</sup>。これを受けて健康福祉部は（日本の厚生労働省にあたる）、老人福祉政策の方向を従来の生活保護老人を対象とした福祉事業から「健康で活気溢れる老後生活の保障」という目標を設定して老人全体を対象とした福祉政策を開始した。この目標を達成するための具体的な方策として、1. 生活安定基盤の造成、2. 健康な老後生活、3. 尊敬されながら活動する老人像の確立など3つの活動を実施している（表I）。

表I 韓国の老人福祉施策

1. 生活安定基盤の造成	1) 老人の所得保障強化 ① 敬老年金の支給, ② 老人職業斡旋センターの支援, ③ 老人共同作業場の設置拡大 2) 要保護老人の問題対策 ① 老人福祉施設の拡充と運営費の支援, ② 「老人の家」と敬老食堂の運営費支援, ③ 1人老人世帯(同居老人)の介護の対策
2. 健康な老後生活	1) 医療サービスの拡充 ① 老人の健康診断の徹底 2) 痴呆老人事業の強化 ① 痴呆老人の登録並びに相談, ② 痴呆老人専門施設の設置 3) 在宅老人福祉事業 ① 在宅老人福祉事業の拡充と事業費の支援, ② 家庭奉仕員派遣事業, 昼間/短期保護事業などの拡充と事業費の支援 等
3. 尊敬されながら活動する老人像の確立	1) 敬老の雰囲気醸成 ① 「敬老の月」および「老人の日」、「親の日」の制定, ② 敬老優待制の拡充(各種の税制優遇, 奉養手当の支給, 住宅資金の支援, 住宅を持たない老父母奉養者に対する住宅分譲優先件の付与 等) 2) 余暇善用 ① 敬老堂(老人亭)の運営費支援, ② 余暇施設の登録と管理 3) 老人の奉仕活動 ① 健康で志の有る老人には、環境管理, 交通整理, 公園管理, 漢文教師等の活動と奉仕手当の支給

(資料: 少子高齢化と高齢化社会対策シリーズII, エイジング総合研究センター, 1998)

韓国の高齢化は高齢者の生活安定のための年金制度にも影響を及ぼした。韓国の年金制度は、従来、公務員や職業軍人、公私立学校教職員などを退役した一部の高齢者を対象とした特殊職域年金であった。しかし、1988年に国民年金制度が実施されてから、国民年金の対象は事業所加入者から地域加入者へと徐々に拡大が図られ、1999年には韓国でも国民皆年金となった。

2000年日本内閣府が実施した『高齢者の生活と意識』における生活の主な収入源を問う調査に対し、日本・アメリカ・ドイツ・スウェーデンで高齢者の70%前後が公的・私的「年金」と回答しているのに対して、韓国の高齢者では年々減少はしているものの50%近くが「子どもなどからの援助」と回答し、公的・私的「年金」と回答した高齢者は全体のわずか6.5%過ぎない<sup>5)</sup>。国民年金は20年の加入を経て支給されることから、韓国では2008年から徐々に年金の受給者が増加すると予測されている<sup>6)</sup>。1997年に制定された敬老年金制度は、老人福祉政策の生活安定基盤の造成として国民年金加入年齢を超えた低所得者に給付されているものである。

韓国と諸外国で行われた意識の比較で、“高齢者に対する重要な政策や支援で大切だと思うもの”という問いに対して、韓国の高齢者は「公的な年金制度の充実」58.7%、「医療サービスの整備・充実」50.6%、「働く場所の確保」47.3%、「介護や福祉サービスの整備・充実」45.2%を上げている<sup>7)</sup>。高い割合を占めた項目は、「公的な年金制度の充実」、「医療サービスの整備・充実」、「介護や福祉サービスの整備・充実」といった社会施策や保障を期待するものであったことから、現在においても、韓国の高齢者は社会施策などの支援を必要としていることが推測される。

## II. ソウル市の老人福祉主要事業

ソウル市などの都市部における65歳以上老年人口の割合は、2000年には5.4%であり郡村部の14.7%に比べて低い傾向にある。しかし、核家族化による老父母との別居や伝統的な老父母扶養意識の衰退などによって高齢者の経済問題が都市部でも指摘されている<sup>8)</sup>。ソウル市の老人福祉事業は、基本方針を「生活能力のない低所得老人に対する財政支援を通じての基礎生活の保障」、「健康で活動能力のある老人に対する就業並びに社会活動の機会増大」、「老人に対する健康管理の強化」、「老人福祉施設の拡充並びに運営の内実化」としている<sup>9)</sup>。現在、ソウル市では「老人福祉施設の拡充並びに運営の内実化」を実現するために老人福祉施設の整備が進められ、その充実が図られている。

## III. ソウル市および近郊の老人福祉施設

筆者は、在宅高齢者を対象として複数のサービスを提供している老人総合福祉館、痴呆を持つ高齢者や脳卒中による麻痺などの身体的障害をもった高齢者のための高齢者センター、および私立施設である3つの老人ホーム施設の視察をおこなった。

### 1. 老人総合福祉館 Senior welfare center

今回、視察した老人総合福祉館は、ソウル市からの委託を受けて社会福祉法人が2000年11月に設立し運営している。設立の目的は、「地域社会のお年寄りを対象に色々なサービス・プログラムを開発支援する事により、健康増進、健全な余暇、文化活動及び日常生活の自立自活を支援し地域社会の老人福祉に対する理解と関心を拡大して、老人福祉増進

に寄与する」とされている。館内には嘱託医、看護師、社会福祉士、理学療法士、栄養士などの専門スタッフが配置されている。

センターは地下1階地上3階の建物で、内部は階段が花で装飾されるなど、明るく楽しい雰囲気であった。地下1階には敬老食堂・浴場・理美容室とランドリールームなどがあった。浴場の浴室はゆったりとしたスペースが確保され、シャワーと浴槽があり、浴槽には手すりのついた階段を利用して入る作りになっていた。ランドリールームは洗濯物を持ち込み洗濯するためのもので、全自動洗濯機と乾燥機が設置されており、洗濯の際に介助の必要な利用者については職員による介助も行っている。敬老食堂は一食1500W（約150円）で食事を提供しており、食堂前の廊下には1時間程前から十数名の老人が既に集まり座っていた。利用方法は食堂の入口で食券を職員に渡し入室した後、トレーを持って厨房の窓口に並んで主食や副菜を盛り付けてもらうセルフサービス式である。メニューは日替わりの単一メニューで、メニューを選択することはできなかった。また、席数を確保するために大きなテーブルや沢山の椅子が配置されており、空間的な余裕はなかった（図1）。

1階には健康管理部門があり、相談業務・理学療法・血糖値などの簡単な検査が実施されている。また、1階には痴呆老人専用のデイケアが設置されており、見学した昼食前には、全員で紙工作を行っていた。デイケアのエリアには、アクティビティ・ケアが行われる大きなワンルームとトイレ、約3m幅のサンルームがあった。室内とサンルームには、アクティビテ

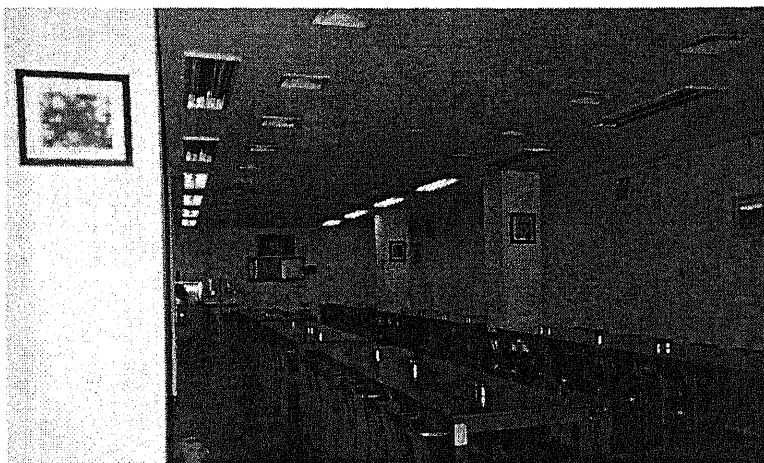


図1 総合老人福祉館内の敬老食堂

ィで作成した作品などが展示されていた。見学した日は雨だったため、利用者は通常より少ない8名程度であったが、1日あたり平均10名以上の利用があるということであった。スタッフは3名が配置されていた。デイケアでは送迎サービスも実施されており、デイケアルーム内で昼食も提供されていた。徘徊する利用者もあることから、デイケアルームの出入口は施錠されていた。2階・3階には文化教室があり、語学や音楽・スポーツなど多様なプログラムが準備されていた。見学時は、コンピューター教室が行われていた。

この施設は、糖尿病の血糖測定など簡単な検査などによる疾病管理から食事の提供や入浴、洗濯などの生活補助、更に生きがいなどのための文化教室に至る幅広いサービスを提供していた。そのサービス内容の1つであるランドリールームの存在から、老人世帯における家電製品の普及率の低さが推測され、韓国における高齢者の経済問題がより切実なもののようにも思われた。また、敬老食堂においてはメニューの選択ができない、席数を確保するために空間的な余裕がないといった状況がみられ、今後はよりサービス内容の充実が求められる。

## 2. 高齢者センター

痴呆老人や脳卒中による障害をもつ老人の入所施設とデイケアセンターが併設された老人福祉施設である。福祉施設として位置づけられており、入所にあたっての費用は国が負担しており、利用者の負担は無い。

建物はやや古く、地下 1 階、地上 4 階の回廊型の建築であった。建物内に階段はなく、20m 程度の長いスロープにより各階を移動するようになっていた。地下には理学療法室と健康教育などに利用する教室があり、1 階にはデイケアルームや事務などの管理室、2 階・3 階は痴呆老人の入所施設、4 階は講堂となっており大きな行事などの際に使用されるということであった。理学療法室は電気治療の機器や筋力増強のためのトレーニングマシン、歩行練習のための階段などが設置されていた。理学療法と老人に人気のある治療として東洋療法（針・灸・マッサージ・ヨガ・アロマセラピーなど）が行われていた。デイケアルームには習字・水墨画など活動の作品や写真などが展示されていた。見学日は日本のお盆休みにあたる「秋月」の前日であったためデイケアは閉鎖されていた。2 階・3 階の入所棟は、痴呆老人や身体に障害のある老人を対象とした入所施設となっている。病室には個室が無く、6 人部屋が主となっており、一部屋 20 名の部屋も一室ほど見られた。1 階あたりの収容人数は 40 名程度で、3 階と 4 階を合わせ 80 人前後の老人が入所しているものと思われた。ベッドタイプの部屋とオンドルタイプ（フローリング）の部屋が見られたが、個人的な家具などは見られず、リネン類は白で統一されており色彩も乏しかった。各部屋の出入口付近にバスルームが配置されており、浴槽は無く、便座の横にシャワーがついているのみであった。ナースステーションの前には小さな食堂があり、TV なども設置されていたが、収容できるのは 15 名程度という広さで、自力での歩行や車椅子乗車が可能な一部の入所者が集まり食事をしていた。入所施設棟の出入口はスロープからの転落防止など安全性の確保のために施錠されていた。ここでは、車椅子にも抑制帯が使用されており、入所者である老人が一人で立ち上がることができない状況がみられた。

この施設は、建築もやや古かったこともあり、大人数部屋の存在などの「施設環境の問題」など、現在の高齢者の看護や介護に適さない点もみられた。また、車椅子への抑制や施錠といった「抑制の問題」などがみられたことから、入居者への倫理的配慮を含めた生活の質の向上が求められる。

## 3. 老人ホーム

### 1) シルバー・リッジ Silver ridge

シルバー・リッジは(株)ユニシルバーが運営する老人ホームで、ソウル市から 1 分位の郊外に位置する。施設の規模は、収容人数 42 名程の大きさである。地上 3 階の建物で、地下 1 階には理学療法室と食堂と調理室があり、その他に各階の経理などの事務室、介護用品などのインターネットショップを運営している。1 階は身体に何らかの障害をもつ介護比較的に軽い疾患をもつ老人、3 階は軽度の痴呆がある老人、その身体的・精神的状況によって分けられ生活していた。2 人部屋を夫婦で利用している入居者もあつた。入居費用は月額 200 万 W（約 20 万円）で、スタッフは看護師、理学療法士、ソ-

シャルワーカー、ケアワーカーなどの職員が配置されていた。

1フロア10数名という人数であることから、小規模で家庭的な雰囲気があった。各フロアでは砂絵などのアクティビティ・ケアも実施されていた。各階にはエレベーターと階段が整備されており、階段はガラス戸で隔てられ施錠されていたが、入居者はエレベーターを利用して自由に移動できるようになっていた。フロア全体がバリアフリーとなっており、トイレやシャワールームが各階に設置されていた。

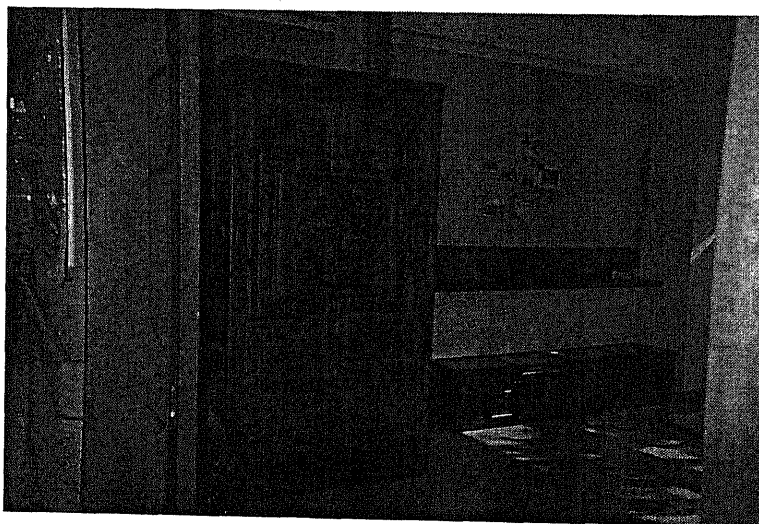
施設はソウル市郊外に位置するが車で1時間弱と比較的近いこともあり、家族もよく面会に訪れることができる。また現在、施設が満床であることから、入居待ちの人も抱えている状況ということであった。

## 2) シルバー・ケアズ Silver Care's

シルバー・ケアズは、ソウル市内のホンチェ洞とピョンチャン洞の2ヶ所にあるソウル女子看護大学附属の老人ホームである。ホンチェ洞の老人ホームはソウル女子看護大学に隣接して建てられている。ホンチェ洞は2001年9月に開設された地下1階・地上4階の建物で、ピョンチャン洞は2003年3月に開設された地上3階の建物であり、2つの老人ホームは共に建物が新しく内部も清潔に保たれていた。

各老人ホームには利用者の部屋の他、休憩や娯楽（アクティビティ・ケア）に利用されるホール、トイレとシャワーが併設された一般浴室と入浴機器などが設置された特別浴室や理学療法室あり、屋上は野外庭園となっていた。部屋は1人部屋から6人部屋があり、ベッドタイプ部屋が主となっているが、ホンチェ洞の老人ホームにはオンドルタイプ（フローリング）の部屋もみられた。廊下や室内には、ホンチェ洞は伝統的な家具や民芸品などが設置されており（図Ⅱ）、ピョンチャン洞は、入居者でもある画家が描いた現代的な絵画によって飾られていた。ピョンチャン洞の内部は斬新な作りで、屋内には小さな緑化された庭園が設置され、廊下と部屋の中の壁は天井から床までの全体を仕切ってはならず開放的な空間となっていた。

ホンチェ洞を訪問した時、ソウル女子看護大学の実習生が数名訪れており、スタッフや入居者と共にアクティビティ・ケアに参加していた。ピョンチャン洞では、その日が誕生日の利用者があり、訪問時にパーティーは行われていなかったが、ケーキやフルーツがその利用者に振舞われていた。



図Ⅱ オンドル部屋と伝統的な家具

## 3) ノーブルカウンティ老人ホーム Noble County Nursing Home

ノーブルカウンティ老人ホームは、韓国のサムスングループが建設した各種サービスの複合施設 Noble County の中にある。7階建ての老人ホームの他に269世帯の住居マンシ

ョンとしての2つの高層ビルやプール・ジムの完備されたスポーツ施設が隣接している(図III)。

老人ホームは、痴呆や脳卒中など慢性の身体疾患をもつ高齢者のための専門療養施設として位置づけられており、対象者は満60歳以上の脳卒中や痴呆などにより日常生活補助の必要な人とされている。居室は1人部屋(37室)、2人部屋(26部屋)、4人部屋(27部屋)の3タイプがあり、総ベッド数は197床の施設である。その他には、食堂や浴室、ホールなどが整備されていた。入居費用は4人部屋を利用する場合には、保証金として5000万W(約500万円)と、月々275万W(約27.5万円)の負担が必要となる。



図III Noble Countyの景観

提供されるサービスは、「看護・看病(介護)サービス」「医療・リハビリサービス」「生活サービス」と3つの部門が設置されている。「看護・看病(介護)サービス」の看護サービスでは看護師は24時間配置されており、ナーシングホーム内では、投薬、糖尿病管理、褥瘡などの皮膚管理など主として医療的な側面を担っており、看病サービスは身体介護に相当するケアを提供している。「医療・リハビリサービス」の医療サービスでは、施設内クリニックによる診療が随時可能であり、サムスン医療院との連携により24時間の救急体制および後送体制もあり、必要時に対応が可能となっている。また、理学療法・作業療法・言語療法などのリハビリサービスがあり、回想療法や園芸療法などにも取り組まれている。「生活サービス」では、生活補助サービスとして3回の食事と1日2回のおやつを提供および掃除や洗濯サービス、余暇活動サービスとしては多様な娯楽・行事のプログラムや散歩、その他には音楽や美術、レクリエーションによる治療プログラムが完備されている。

これらの老人ホームは、いずれも近年に建設された私立施設であり、日本の一般的な老人ホームなどに比べても、環境や提供されるサービスなどが充実していた。環境においては空間が広く、デザインにも趣向が凝らされていた。サービスでも関連病院と提携して24時間の医療体制が取られている施設もあった。しかし、韓国では介護保険制度の整備が未だなされていないために個人の経済的な負担が大きく、利用者は経済力のある高齢者に限られるといった状況にある。

#### IV. おわりに

現在、韓国では急速な高齢化に伴い、老人福祉政策が促進されつつある。かつて2~4世代にわたる大家族によって支えられてきた韓国の老人福祉は、若年層の都市部への人口集中や伝統的な儒教思想の衰退などに伴う核家族化といった社会の変化に伴い、国家レベルの政策が求められるようになった背景があった。

韓国の施設を視察して、老人福祉施設の多くが開設して間もない施設であったことから、韓国の老人福祉政策が短期間のうちに急速に整備されつつあるという韓国高齢者福祉の流れを推測することができた。しかし、韓国では他の先進国に比べて老人の社会保障による生活基盤整備が遅れていることから、高齢者個々の経済格差が大きく、低所得の高齢者が収容されている施設と経済力のある高齢者の施設では生活水準に大きな隔たりがあった。今後、韓国の全ての高齢者が幸せな生活を送るために、高齢者の介護予防がなされ、療養生活の財源が確保されて全ての老人福祉施設においてサービスの質が確保されることで施設間格差の解消されることが望まれる。

#### 謝辞

今回、漢陽大学校へ初めての交換留学生として留学する機会を得た。留学のために御尽力くださいました高知医科大学学長、副学長、看護学科長 橋本和子教授、片岡万里教授ならびに担当職員の皆様に深く感謝致します。また、初めての交換留学生を快く受け入れ、親切にお世話して下さいました韓国漢陽大学校の看護発展研究所所長 Juhee Kim 教授、看護学科長 Jeong-Seop Lee 教授をはじめスタッフの皆様には厚くお礼申し上げます。

#### 引用・参考文献

- 1) エイジング総合研究センター (2003) 高齢社会の基礎資料'02-'03年版第1版, p.295, 中央法規, 東京
- 2) 安弼濬 (1999) 韓国高齢者の医療と生活. 保健の科学 41 (5): 359.
- 3) 内閣府 (2002) 高齢者の生活と意識第1版. p.308 ぎょうせい 東京
- 4) 尹鍾周 (2003/11/18) ソウル市の高齢化状況とその対応. 日本財団図書館ホームページ <http://nippon.zaidan.info/seikabutsu/1998/00103/contents/024.htm>
- 5) 内閣府 (2002) 高齢者の生活と意識第1版. p.24 ぎょうせい 東京
- 6) 崔仁鉉 (2003/11/18) 韓国における都市の人口高齢化. 日本財団図書館ホームページ <http://nippon.zaidan.info/seikabutsu/1998/00103/contents/014.htm>
- 7) 内閣府 (2002) 高齢者の生活と意識第1版. p.140 ぎょうせい 東京
- 8) 尹鍾周 (2003/11/18) ソウル市の高齢化状況とその対応. 日本財団図書館ホームページ, <http://nippon.zaidan.info/seikabutsu/1998/00103/contents/024.htm>
- 9) 尹鍾周 (2003/11/18) ソウル市の高齢化状況とその対応. 日本財団図書館ホームページ, <http://nippon.zaidan.info/seikabutsu/1998/00103/contents/024.htm>
- 11) 李誠國 (2001) 韓国高齢者の健康. 保健の科学 43 (1): 43-47.
- 12) SILVER CARE'S 作成, SILVER CARE'S 案内冊子
- 13) Noble County Nursing Home 作成, Noble County Nursing Home 冊子